

高校野球特集 夏V候補は!? 日本文理・東京学館新潟・北越…etc.

NIIGATA Sports Magazine

新潟スポーツスタンダード
マガジン

Standard



2022 Summer

夏号 定価1,000円

いざ真っ向勝負

The TAIKETSU

田中晴也×茨木秀俊

吉井愛斗×竹野聖智

山倉大武×川瀬 直

大滝快晴×幌村薫汰

上村泰雅×反町謙介



特集 高校野球

もっともっと 熱くなれ。

Niigata Baseball Classic

85校 選手名鑑

硬式・軟式・女子
全2,546人の部員

other close-up players

中町龍之介／高橋史佳／小幡拳志郎
中里優暉／石田 廉／杉本寛児／青木彰吾
野口雄太／羽吹幸隼／杉田海人
桐生 隼／中村桜介

22年春季県大会詳報

東京学館新潟が初優勝

保存版記録集

新潟県大会準決勝・決勝と

夏春全国大会成績

プレーバック21年

秋・夏の大会

熱くするのは野球だけじゃない!

県総体決勝 男子バスケ・女子サッカー・ダンス

新潟医療福祉大スイマー 山崎光&津田萌咲

…and more.

特集 高校野球

もっともっと 熱くなれ。

Niigata Baseball Classic

光を取り戻した1年前。
今、白球は強く、輝きを増す。
さらに、球児たちは熱く、高鳴る。

一瞬たりとも見逃したくない、夏の鼓動。

スタンダード新潟編集部

撮影◎ 嶋田健一 (スタジオ嶋田)



エースの誇り

東京学館新潟3年 投手

中町龍之介
Nakamachi RYUNOSUKE

撮影◎嶋田健一 (スタジオ嶋田)

冬場のフォーム改造で、威力を増した自慢の速球を披露しているはずだった。しかし、今春の大会はけがのため本調子とはほど遠い内容。「自分が甲子園に連れて行く」。エースナンバー1の争いを勝ち抜き、誇りを背に最後の夏も勝ち取る。

PLAYER DATA

180センチ・90キロ
右投・右打
十日町市立下条中出身
2004年4月5日生



期待の二刀流

日本文理2年 外野手

高橋史佳
Takahashi FUMIKA

春季県大会は打力を生かして4番に入り、本塁打1本を含む10打点と気を吐き、存在を見せつけた。今後、期待がかかるのは昨夏の準決勝で最速146キロをマークした投手としての活躍。田中晴也、村越仁士克と強力トリオを形成する。

PLAYER DATA

181センチ・86キロ
右投・右打
新潟市立新津第二中出身
2005年12月14日生

撮影◎伊平裕哉 (スタジオ嶋田)



左投手をそろえた今年の北越投手陣の中で、サイドスローからのスクリーンボールが異彩を放つ。プロ野球投手でも平均で約2,200回転(1分間)といわれるが、中里は昨秋に2,500~2,700回転を計測。変化球で空振りの取れる投手だ。

PLAYER DATA

165センチ・50キロ
左投・左打
新潟市立宮浦中出身
2005年3月20日生

異彩の変化球

北越3年 投手

中里優暉
Nakazato HIROKI

撮影◎嶋田健一 (スタジオ嶋田)



成長右腕
小幡拳志郎
Obata KENSHIRO
中越3年 投手

球威のある直球と変化球のコンビネーションで三振を奪うだけでなく、最終年の今年、打たせて取る投球術も身につけた。春季県大会準々決勝の北越戦は3-2で完投勝利。8安打を許したが自責点はゼロ。夏に向けて着々と成長している。

PLAYER DATA

181センチ・85キロ
右投・右打
魚沼市立小出中出身
2004年9月1日生

撮影◎嶋田健一 (スタジオ嶋田)

最終学年に懸けるスイマー。
ラストスパートは笑顔で。



競泳・背泳ぎ 山崎 光

Yamasaki Hikaru

【新潟医療福祉大学水泳部】

Tsuda Moe

津田萌咲 競泳・バタフライ

どんなことにも立ち向かえる。泳ぐことで強くなった心がそうさせる。2人のスイマーが、さらなる高みを目指して大学4年のラストシーズンを戦う。

撮影●嶋田健一(スタジオ嶋田)
文●井上和男(編集部)

profile 津田萌咲(つだ・もえ) ●2000(平成12)年12月9日生まれ、大阪府出身。近畿大学附属高に通いながらイトマンスイミングスクールに所属。高3年時のインターハイ100mバタフライで4位。新潟医療福祉大では、21年のジャパンオープン100m4位、日本選手権100m5位など。健康スポーツ学科4年。158cm。

profile 山崎光(やまさき・ひかる) ●2000(平成12)年10月8日生まれ、和歌山県出身。SCアポロで水泳を始め、和歌山北高2年時のインターハイ100m背泳ぎで4位。新潟医療福祉大入学後、21年の日本選手権 50m 5位、日本学生選手権 100m 5位など。健康スポーツ学科4年。162cm。

「大学で水泳はチームスポーツだと思い直しました」と山崎。女子チームキャプテンとして選手をまとめ上げる。津田もインカレに向けて「みんなが1つになる」と誓う

今頃、大舞台を前に胸が高鳴っていたに違いない。
2年周期で行われるワールドユニバーシティゲームズ(ユニバー)の日本代表に選ばれた、山崎光と津田萌咲。だが、国際大学スポーツ連盟は新型コロナウイルスの終息が見えないと、6月30日から始まる予定だった中国・成都での大会を来年に再延期(本来は2021年開催)することを決めた。日本代表がGW明けから合宿(東京)に入る直前の出来事だった。「気持ちの整理がつけられなかった」と津田。自身にとって初めての日の丸だった。山崎光も「ショックが大きかった」。でもすぐに気持ち切り替わった。代表合宿でトップスイマーたちの鼓動に触れ、強い心を知った。小さい頃から慣れ親しんできた『水』に救われた。次の目標が定まった。
津田が水泳を始めたのは小学校2年の時。「テレビで見たシンクロナイズドスイミング(アーティスティックスイミング)をやるため」にバレーと平泳ぎを習い始めたのがきっかけ。やがて記録が出る度、水泳の楽しさにはまっていた。多くの日本代表選手が輩出する名門イトマンスイミングスクールで励み、大阪から新潟医療福祉大学に進学した。津田は50、100メートルバタフライが専門。同じ種目には水沼尚輝がいた。
「ここには自分の能力や特性に合ったトレーニング環境があります。結果を残している先輩も多い。下山(好充)先生のもとで水泳をやり切りたいと思って来ました」。スプリンター育成に長けた水泳部スタッフ、日本のトップスイマーが積み上げてきた英知。それらを存分に享受できる環境。

インカレ後はプライベートの時間に余裕ができそう。「温泉でゆっくりしたい」(津田)。「新潟は海鮮がおいしいので食べに行きます」(山崎)。思いきり楽しむために、良い結果を残したい。



撮影●井上和男(編集部)

自身が決めた道を応援してくれる両親。感謝の気持ちを心の中にいつも置きながら、泳ぐ。記録が思うように伸びていないことにも、「まだやることがたくさんある」と前を向く。

高校3年時にジュニアパンパシフィック選手権で初めて日の丸をつけた山崎もまた、多くのトップアスリートが育った体育科のある和歌山北高校を卒業してこの大学の門を叩いた。いくつかの名門大学の練習にも参加したが、徹底的に泳ぎ込む練習量の多さが合わなかった。「大学名のブランドに頼らず、自分の力で結果を出していきたいと思いました」。マイペースで、いざやるとなれば一気にやる――。高校時代と

変わらないメリハリをつけた練習ができると感じた。

だが思い通りにはいかなかった。「タイムが伸びず、何をしていたのか、正解が分からなくて。どう工夫すればいいかすらも分からなくなっていました」。入学後から苦しんだ。そんな山崎に下山監督をはじめスタッフはヒントを与え続け、山崎も試行錯誤しながら少しずつ、ちよつとずつ糸口を見つけていった。そして昨年の夏、大学に入ってから初めてベストタイムを出すことができた。

成果をつかむまで3年かかった。でも、自分の選んだ道を歩き続けた。「3年かかっただけ」のこと。道はまだ続く。今度は駆

け出す覚悟だ。ベストタイムの更新を見据え、最終学年となった今、山崎は泳ぎの修正に取り組んでいる。全ては今年8月末に開かれるインカレ(競泳日本学生選手権…東京)のため。学生生活最後の大舞台に掲げた目標は、個人で100メートル背泳ぎ優勝、そしてチームで8位入賞だ。「今のままでは厳しい。4年生が引っぱり、4年生の力を信じて戦いたい」。女子チームのキャプテンとして決意を語る山崎。
津田もまたインカレを集大成と定め、水泳に対する畏敬の念を口にする。

「自分にとって水泳は本当に大きな存在。唯一、こんなに没頭することができて、チャレンジしてみようという気持ちにさせ

てくれる存在なんです」。結果が出ないと、その事実から目を背けたくなる。しかし水泳が津田を強くした。「心の変化に目を向けられるようになりました」。津田も山崎も、思うようにいかない現実を経験し、それに向き合う術を大学4年間の競技生活から学び、強くなった。

2人とも郊外の大学へはバスで通う。自動車免許を持つていない。取る時間も惜しみ水泳に没頭してきた。ひと息つけたら免許を取って新潟の美味しいものを食べに行きたいと笑った。



懐疑—もう誰も信じられない—



in lieu of bouquets...



五月雨



人間、失格—太宰治「人間失格」より—



ハクナマタタ〜群れて生きるモノたち〜



Solitude—ヘルマン・ヘッセ「荒野のおおかみ」より—



orIgin—自分進化論—



Hero



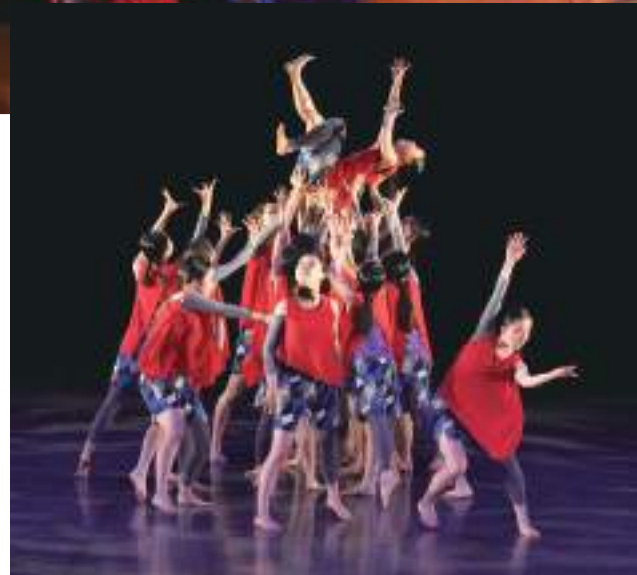
I'm hungry〜「はらべこあおむし」より〜

第75回新潟県高校総合体育大会 ダンスコンクール 及び発表会 6月4日 新潟県民会館 兼 第34回全日本高校・大学 ダンスフェスティバル (神戸) 予選会

初めて頂点を つかんだ！ 東京学館新潟

・最優秀賞

もっとつかめ もっとぶつける
—岡本太郎が教えてくれたこと—



8月には神戸市で開かれるダンスフェスティバルに初めて出場する。
「あと2カ月間自分たちのできることをやって臨みたい」(渡邊)

最優秀賞の受賞校名が発表された途端、
歓喜のあまり涙した17人の部員たち。「本
当に私たちなのか信じられなくて…」と興
奮冷めやらない渡邊春奈キャプテン(3
年)。伝統校が上位を占めてきた歴史の中、
東京学館新潟は昨年の審査委員賞が創部以

作品を発表する「参加発表部
門」には17校が出演。13校が
優勝を争った「創作コンク
ール部門」では、東京学館新潟
が最高賞の「最優秀賞」を初
めて受賞した。

撮影●嶋田健一(スタジオ嶋田)
文●井上和男(編集部)



作品の前半は手の役割を表現した構成

来2回目の受賞。驚くのは無理もなかった。
今年の創作ダンスの題名は『もっとつかめ
もっとぶつけるー岡本太郎が教えてくれた
ことー』。渡邊キャプテンがダンスに込め
た思いを話した。「自分の手に目を書いた
岡本太郎さんの本の表紙があります。現代
の私たちは指先だけで情報を発信できてし
まう。でも私たちが手でできることって、
直接ぶつけることが大事なんじゃないか。
それを表現したかったんです」
今年1月から部員たちでアイデアを持ち
寄り創作し始めた。しかし新型コロナの影
響で部活動が度々中止になるなど、作品作
りは容易でなかった。各自が個人でできる
練習を考えた。再開された部活動では時間
の大切さを感じながら全員練習に励んだ。
17人のチームは作品のテーマ通り、自らの
手で大きな成果をつかみ取った。